

## 第6学年 嵯峨立タイム指導案

指導者 小松英明

1 単元名 大単元 人間 小単元 海峰小学校と交流しよう

2 活動の計画にあたって

(1) 単元設定の理由

ア, 情報教育から

高度情報通信社会の進展に対応し、学校教育において小学校・中学校・高等学校を見通した情報教育の必要性が指摘されている。「体系的な情報教育の実施に向けて」(平成9年10月3日)情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議)では、小学校段階において、「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力(以下、「情報活用の実践力」と略称する。)」が目標とされている。ここでは、情報の受け手としての能力とともに発信者としての能力も求められているのである。また、発信者としては、「受け手の状況をふまえて」情報を発信することが求められており、相手の立場に立っての情報発信ができる豊かなコミュニケーション能力の育成が求められているとも言える。

一方、児童のコミュニケーション特性に関する研究では、小規模校の児童は、自らの主張を行なうよりも相手の話を聞くという内向的な姿が指摘されている。その小規模校の児童の特性には、対人関係の広がりや形成される集団の小ささが影響していると指摘されており、児童を取り巻く人的環境が児童の主張性に影響を及ぼしていると考えられる。

そこで、相手の立場を考えながら情報を発信する体験をさせること、人的環境を擬似的ながらも広げることの2つをねらいとして、他校との交流学习を含む本単元を設定した。

なお、交流学习相手校としては、富山県氷見市立海峰小学校を選定し、1年を通じた交流を行っていきたいと考えている。

イ, 単元内容から

大単元『人間』では、ジェンダーや差別についての学習を進めていきたいと考えている。最近、若者の自分勝手な感情による殺人事件などの凶悪事件が多発する状況にある。それらの事件からは、人間や社会に対する見方や感情に貧困さを感じられる。人間や社会に対する見方や感情を豊かにするため、道徳の時間や社会科など様々な教育活動が行われているが、本単元においては、総合的な学習の時間を利用し、児童に学習課題を設定させ、自らの問題意識に基づいて学習を進めさせることをねらいとした。教科などで与えられた資料から学習を進めるよりも、自らの課題意識に基づいて学習を進めることにより、人間や社会に対する見方や感情がより豊かになるであろうと思われる。また、この時期に人間や社会に対する学習を設定した理由は、発達段階的に社会に対しても目を向けられるようになってきていること、思春期を迎える前に性差などについて学習を進めることが必要であると考えたためである。

(2) 児童の実態(男子4名, 女子4名 計8名)

ア, 情報教育について

コミュニケーション能力に関する実態としては、次のような姿が挙げられる。

- ・ 遊びなどの場面においては、自分の意見を話そうとする。
- ・ 敬語を使うなど、場に応じた言葉遣いをしようとする意欲が感じられる。
- ・ 授業中など改まった場面で話すことは苦手である。
- ・ 仲間内での言葉遣いが乱雑である。
- ・ 当校以外の児童の前で、話すことは苦手である。

上記のような姿の背景には、前述のように対人関係の広がりや形成される集団の小ささが影響していると考えられる。同世代の者との交流は、当校内に限られており、その交流の範囲は、狭く固定的であると言わざるを得ない。

対人関係を広げる機会としては、町内陸上記録会、町内水泳大会、町内小学校の6年生と一緒に参加する修学旅行、音楽文化祭等があげられるが、当校の児童は、当校の児童だけで集まり、他校の児童との交流などはなく、どちらかといえば萎縮しているような姿が観察されることが多い。これは、文脈を共有しない者とのコミュニケーションの経験が不足しており、どのように接してよいかを分らないことが影響していると考えられる。現在、コミュニケーション能力の向上を願い、場に応じた話し方や話術などについて継続的に指導中であり、よりよく話そうとの意欲が感じられるようになってきてはいるものの、未だ行動に表れるまでには至っていない。

交流学习については、経験が無く、今回の海峰小学校との交流が初めての経験である。交流学习への関心は高く、意欲的に準備などに取り組む姿が見られた。

#### イ、大単元について

児童の家庭は、全てが三世代家族である。古くからこの地域に住み、家業に取り組んでいいた家庭である。どちらかといえば、封建的な習慣が根付いている。

児童の家庭においては、女性が家庭内の仕事のほぼ全てを行っている。児童は、その姿を見ているのだが、違和感をもってはいない。また、家族も女性が家庭内の仕事を一手に行うことを当然のこととして受け止めているようである。家庭科の学習において、「家族の団らんの時間をもてるか。」という問いに対して、「お母さんはいつも仕事をしているから、団らんの時間はもてない。」「お父さんは、いつもテレビを見ている。」などの答えが返ってきている。女性の社会進出が定着している現在、家庭における仕事の役割に着目させることは、児童の将来にとって必要であると考えられる。また、身近な性による社会的役割の違いに着目させることから、人間や社会に対する見方や考え方を深める土台を形成することができると考えた。

### (3) 指導の着眼

#### ア、情報教育について

児童の実態から、コミュニケーションに対する意欲はあるが、上手にできないという児童の姿が浮かんでくる。この姿の背景には、経験不足があげられることは、前段で述べた。経験不足を改善するため、海峰小学校とのテレビ会議を利用した交流学习を計画した。これまで、実際に対面すると恥ずかしさが先に立ち、うまくコミュニケーションをとれない姿が観察されている。テレビ会議システムは、時間は共有するが、場所を共有しないことから、実際に対面して交流を行うわけではない。そのことにより、恥ずかしさが軽減されることと思われる。テレビ会議システムを利用することにより、円滑なコミュニケーションに資すると考えた。

また、遠隔地の学校間交流とした点については、遠隔地であり生活空間に違いがあることにより、より豊かな話題の展開をはかれると期待したからである。合わせて、海峰小学校の児童は、テレビ会議システムを利用した交流学习に慣れており、本校の児童をリードし、スムーズに交流が行われると考えている。

テレビ会議システムを利用した交流学习は、図1(永野ら1999を改変)のように小学校の総合的な学習の時間に求められている情報活用の実践力を養うための活動サイクルに合致する。

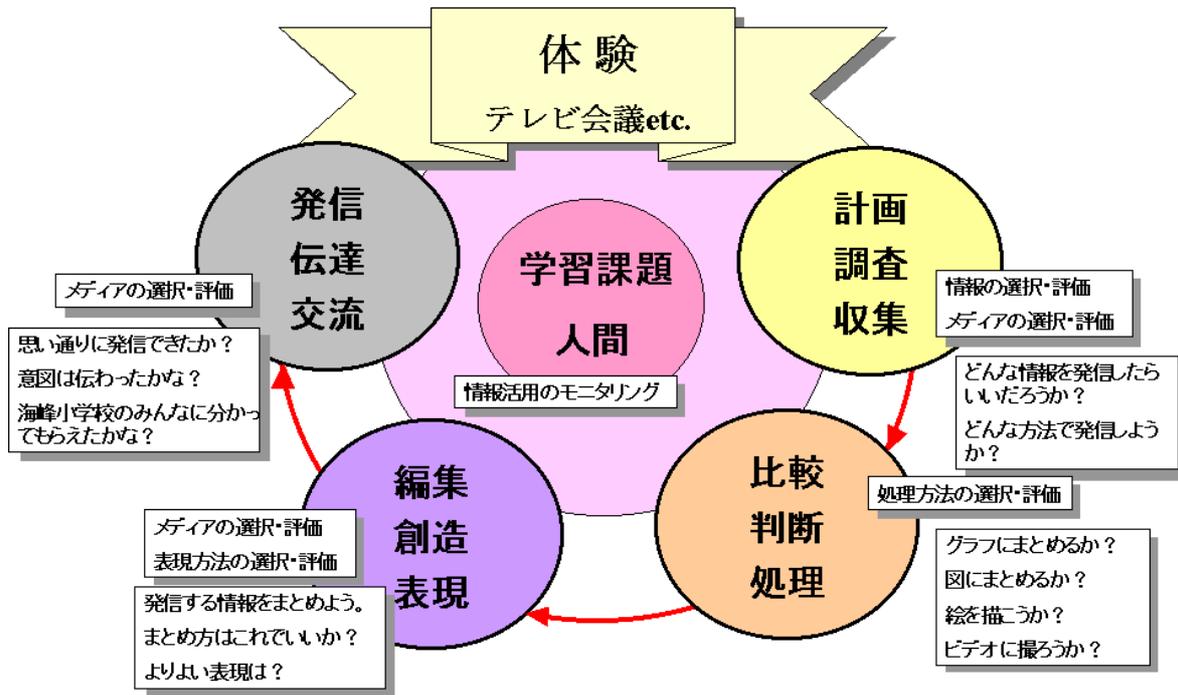


図1 海峰小学校と交流しようの実践予定と情報活用の実践力の育成

「どんな情報を発信したらいいか」、「どんな方法で発信しようか」を考えることにより、『情報の選択・評価』・『メディアの選択・評価』が行われる。集めた情報をどのように処理すれば、海峰小学校の児童に理解してもらえるかを考えることによって、『処理方法の選択・評価』が行われる。また、実際に情報をまとめる活動を通し、発信メディアについて考えることなどにより、『メディアの選択・評価』・『表現方法の選択・評価』が行われる。さらに、実際に集めた情報を発信する活動を行い、その活動を評価することにより、『メディアの選択・評価』が行われる。

この一連の活動は、相手（海峰小学校の児童）を想定して行われる。海峰小学校は、遠隔地であり制約された環境の中での交流であることを考慮しながら行われる。これらの条件を念頭にこれらの活動に取り組むことによって、情報教育が小学校段階に求めている「情報活用の実践力」の育成につなげていきたいと考える。加えて、本校の児童の課題とも言えるコミュニケーション能力育成の機会にしていきたい。

したがって、これらの活動を1回だけで終わらずに年間を通した継続的な活動にしていきたいと考える。海峰小学校は、今年度総合的な学習の時間についての研究指定を受けており、6年生は、健康・福祉について1年間取り組んでいく予定である。当校の6年生においては、嵯峨立タイムを利用し、人間をテーマにジェンダーや差別等について取り組んでいく予定である。お互いの学習成果を報告していくことにより、さらに「情報活用の実践力」とコミュニケーション能力育成を高めることができると考える。

イ、大单元について

今回の実践において、人間や社会に対する見方や考え方を深めるため、家庭内の性による社会的役割の違いに目を向けさせたい。身近な家庭内にも男女という性差により、役割や立場の違いがあることには容易に気づくことができると考える。そこで、性差による役割や立場の違いは、家庭のみならず、社会でもあることを父兄に対する調査から明らかにしたい。次に社会における一種の差別である性による役割や立場の違いから、社会全体に目を向けさせるため、来校しているALTからカナダにおける人種差別について目を向けさせたい。カナダは、フランス系の住民とアメリカなどから入ってきた住民、或いは、東洋系の住民の間で、古くから差別的な感情が存在しているという。ALTは、東洋系であることから、人種差別に関する生の話を聞くことができる。その話を元に、人種差別について考えさせていきたいと

考える。

最後に、同心円上に広げていった視点をもう一度収束させ、身近に差別はないかどうかについて考えさせることにより、いじめ等の問題についても目を向けさせていきたいと考えている。

#### (4) 学校目標との関連

認め合い，高め合う，心豊かな子ども

本校の今年度の学校経営と努力点の中に「情報化への対応」があげられている。その中では、自己表現・情報交流の手段として、情報機器を活用する能力や態度の育成に努めること、学校・国の枠を超えた情報の交流に努めることを掲げている。今回の本実践は、テレビ会議システムというある程度メディアを特定した取り組みではあるが、学校経営の努力点の「情報化への対応」を具現化する実践であると考えている。

#### (5) 研究テーマとの関連

発信し合いながら学ぶ楽しさを味わう子どもの育成  
生き生きと活動する生活科・総合的な学習の時間を通して

本校では、発信し合いながら学ぶ楽しさを味わう子どもの育成をめざして研究に取り組んでいる。本実践は、テレビ会議システムを利用して情報を送受信する活動を盛り込んでいる。また、同世代の遠隔地とテレビ電話を使って交流するという場の設定からも楽しみながら活動に取り組んでいけるものとする。ただ、ここで配慮しておきたいのは、学ぶ楽しさを味わわせる場の設定である。新規性のあるメディアを使用し、未経験だった交流学习を行うという場の設定だけで学習が深まらず、活動はあるが学びがない状態に陥らないようにするための工夫をしていきたいと考える。そのためには、情報教育の観点から、図1のような各段階を視覚的、具体的に捉えさせ、自分がどんな段階でどんな作業に取り組めば、より意図の伝わる相手の状況に応じたコミュニケーションが成立するのかを考えさせながら展開を工夫していきたい。

### 3 単元の目標

#### (1) 単元の目標

大単元「人間」は、初等教育の最後の学年であるこの時期に、人間に注目させることは意義のあることと考え設定した。また、思春期を迎える以前に性差やジェンダー、社会的な差別等について理解することは、性差や人種を超えた交流が盛んになると考えられるこれからの社会生活を送るため、人間としての在り方や生き方を自分なりに考える上で大切なことであると考えた。また、単元の目標は、「人間の性差や差別の視点から人間の在り方について自分なりの考えをもつことができる。」と設定した。

#### (2) 観点別具体目標

< 関心・意欲・態度 >

- ア 体験の意義を理解し、積極的に取り組むことができる。
- イ 計画に則り、積極的に調査に取り組むことができる。
- ウ 集めた情報を進んで、比較したり検討したり処理しようとする。
- エ 既存の情報の編集・創造・表現を参考に、積極的に情報の処理に取り組む。
- オ 楽しみながら情報を発信する活動に取り組む。

< 思考・判断 >

- ア 体験活動をスムーズに進めるための環境設定を考えることができる。

イ 情報を収集する手段を課題に応じて選択することができる。

ウ 集まった情報にあった処理方法を選択することができる。

エ 表現する適切なメディアを選択することができる。

オ 寄せられた反応を整理することができる。

<表現・技能>

ア 文脈の流れにのって、明確に質問したり意見を述べることができる。

イ 調査の意図を明確に表現することができる。

ウ 作図のきまりなどに則り情報を適切に処理できる。

エ メディアに合った表現方法を工夫することができる。

オ 受け手の状況を考えながら、情報を発信することができる。

<知識・理解>

ア 課題意識から見た体験の意義を理解している。

イ 情報を収集する様々な方法の特性について理解している。

ウ 情報を処理する様々な方法の特性について理解している。

エ 情報を表現する様々な方法の特性について理解している。

オ 相手の状況に応じた情報発信の方法について理解している。

#### 4 学習計画(35時間扱い) 本時 2 / 35

区分	教科・ 題材・ 単元名	時 数	主な学習内容	評価の計画				実施 予定 月
				関心 意欲	思考 判断	表現 技能	知識 理解	
第一 次	嵯夕	1	交流内容は？ ・嵯峨立小学校の自慢できるものを紹介しよう。 ・楽しく自己紹介できるのは？	イ	ウ	エ	アオ	5
第一 次	嵯夕	1	海峰小学校との交流(本時) ・嵯峨立小学校の紹介 (自己紹介・嵯峨立神楽・嵯峨立甚句)	ア	ア	ア	ア	6
第一 次	嵯夕	1	交流を振り返ろう ・良くできたのは何か。 ・次回変えた方がいいのは何か。		オ		アオ	6
第二 次	嵯夕	3	性差について調べよう ・男と女はどっちが得か。 ・調べる計画を立てよう。 ・実際に調べてみよう。	イ	イ	イ	イ	7
第二 次	嵯夕	2	調べたことをまとめよう・集めたデータからどんなことが言えるだろう。 ・どんな方法でまとめたらいいだろう。	ウ	ウ	ウ	ウ	7
第二 次	嵯夕	2	調べたことを表現しよう ・見やすくわかりやすく調べたことを表現しよう。 ・適切なメディアは何か。	エ	エ	エ	エ	7
第二 次	嵯夕	2	調べたことを発表しよう ・誰にどんな方法で発表するか。 ・海峰小学校のみんなに発表しよう。 ・相手の意見はどうだったか。 ・調べたことと聞いた人の意見を参考にもう一度まとめを振り返ろう。	オ	オ	オ	オ	7
第二 次	嵯夕	1	詳しい人からお話を聞こう ・ジェンダー問題について詳しい方のお話を聞こう。	ア	ア	ア	ア	7

			・お話から学んだものをまとめよう。						
第三次	嵯夕	1	詳しい人からお話を聞こう ・ALTのチャドさんのお話を聞こう。 (北米の人種問題について) (チャドさんが知っている人種問題について)	ア	ア	ア	ア	ア	8
第三次	嵯夕	4	人種について調べよう ・チャドさんのお話に関して自分も調べよう。 ・人種に関する問題を調べよう。 ・どんな方法で何について調べるか？	イ	イ	イ	イ	イ	9
第三次	嵯夕	2	調べたことをまとめよう ・集めたデータからどんなことが言えるだろう。 ・どんな方法でまとめたいだろう。	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	9
第三次	嵯夕	2	調べたことを表現しよう ・見やすくわかりやすく調べたことを表現しよう。 ・適切なメディアは何か。	エ	エ	エ	エ	エ	9
第三次	嵯夕	2	調べたことを発表しよう ・誰にどんな方法で発表するか。 ・海峰小学校のみんなに発表しよう。 ・相手の意見はどうだったか。 ・調べたことと聞いた人の意見を参考にもう一度まとめを振り返ろう。	オ	オ	オ	オ	オ	9
第四次	嵯夕	2	人間について考えたことをまとめよう ・何についてまとめるか？ ・どんな方法でまとめるか？ ・資料を集めよう。	イ	イ	イ	イ	イ	10
第四次	嵯夕	5	調べたことをまとめよう ・集めたデータからどんなことが言えるだろう。 ・どんな方法でまとめたいだろう。	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	11
第四次	嵯夕	2	調べたことを表現しよう ・見やすくわかりやすく調べたことを表現しよう。 ・適切なメディアは何か。	エ	エ	エ	エ	エ	11
第四次	嵯夕	2	調べたことを発表しよう ・誰にどんな方法で発表するか。 ・海峰小学校のみんなに発表しよう。 ・相手の意見はどうだったか。 ・調べたことと聞いた人の意見を参考にもう一度まとめを振り返ろう。	オ	オ	オ	オ	オ	1

情報教育の視点から本実践を捉えた場合、その活動の分類には、永野ら(1999)が作成した「総合的な学習の時間における情報活用の実践力の育成」が参考になる。その中では、活動を「体験」、「計画・調査・収集」、「比較・判断・処理」、「編集・創造・表現」、「発信・伝達・交流」の大きく5つの段階に分類している。それぞれの段階は、それぞれで独立している訳ではなく、深く関連しているが、その分類に大単元『人間』のそれぞれの活動を当てはめてみたのが、表1「大単元『人間』における活動の分類(情報教育の視点から)」である。

表1 大単元『人間』における活動の分類（情報教育の視点から）

	<導入・海峰小学校への自己紹介>	<性差について>	<人種について>	<考えをまとめよう>
計画 収集・調査	<p>交流内容は？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵯峨立小学校の自慢できるものを紹介しよう。</li> <li>・調べる計画を立てよう。</li> <li>・楽しく自己紹介できるのは？</li> </ul>	<p>性差について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男と女はどちらが得か。</li> <li>・調べる計画を立てよう。</li> <li>・実際に調べてみよう。</li> </ul>	<p>人種について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャドさんのお話に関して自分も調べよう。</li> <li>・人種に関する問題を調べよう。</li> <li>・どんな方法で何について調べるか？</li> </ul>	<p>人間について考えたことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何についてまとめるか？</li> <li>・どんな方法でまとめるか？</li> <li>・資料を集めよう。</li> </ul>
比較 処理・判断		<p>調べたことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めたデータからどんなことが言えるだろう。</li> <li>・どんな方法でまとめたらいいだろう。</li> </ul>	<p>調べたことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めたデータからどんなことが言えるだろう。</li> <li>・どんな方法でまとめたらいいだろう。</li> </ul>	<p>調べたことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めたデータからどんなことが言えるだろう。</li> <li>・どんな方法でまとめたらいいだろう。</li> </ul>
編集 表現・創造		<p>調べたことを表現しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見やすくわかりやすく調べたことを表現しよう。</li> <li>・適切なメディアは何か。</li> </ul>	<p>調べたことを表現しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見やすくわかりやすく調べたことを表現しよう。</li> <li>・適切なメディアは何か。</li> </ul>	<p>調べたことを表現しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見やすくわかりやすく調べたことを表現しよう。</li> <li>・適切なメディアは何か。</li> </ul>
発信 交流・伝達	<p>海峰小学校との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵯峨立小学校の紹介（自己紹介・嵯峨立神楽・嵯峨立基句）</li> </ul>	<p>調べたことを発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にどんな方法で発表するか。</li> <li>・海峰小学校のみんなに発表しよう。</li> <li>・相手の意見はどうだったか。</li> <li>・調べたこと聞いた人の意見を参考にもう一度まとめを振り返ろう。</li> </ul>	<p>調べたことを発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にどんな方法で発表するか。</li> <li>・海峰小学校のみんなに発表しよう。</li> <li>・相手の意見はどうだったか。</li> <li>・調べたこと聞いた人の意見を参考にもう一度まとめを振り返ろう。</li> </ul>	<p>調べたことを発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にどんな方法で発表するか。</li> <li>・海峰小学校のみんなに発表しよう。</li> <li>・相手の意見はどうだったか。</li> <li>・調べたこと聞いた人の意見を参考にもう一度まとめを振り返ろう。</li> </ul>
体験	<p>交流を振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良くできたのは何か</li> <li>・次回変えた方がいいのは何か</li> </ul>	<p>詳しい人からお話を聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダー問題について詳しい方のお話を聞こう。</li> <li>・お話から学んだものをまとめよう。</li> </ul>	<p>詳しい人からお話を聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AL1のチャドさんのお話を聞こう。（北米の人種問題について）</li> <li>・チャドさんが知っている人種問題について</li> </ul>	

## 5 本時の学習

### (1) 題材名「嵯峨立小学校を紹介しよう」

### (2) ねらい

- ・これから1年間の交流学习を行う相手に仲良くなりたいという意図を伝える。
- ・場に応じた適切なコミュニケーションを行うことの必要性を感じさせる。

### (3) 授業仮説

テレビ会議システムを利用した交流学习を行うことにより、コミュニケーションを行う場合は、相手の状況を察しながら表現する必要があることを意識するようになるだろう。

### (4) 準備物

テレビ会議システム一式、神楽装束一式、ラジカセ、カセット、地図、マイク、大型TV

### (5) 学習過程

段階	学習活動	支援と評価
つかむ	<p>1. 本時の活動のねらいと役割分担を確認する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 20%;"> <p>カメラはあっちにあるんだから、こっちを見て言うぞ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 20%;"> <p>司会の話すことをもう1度言ってみよう。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 20%;"> <p>仲良くなるためには、笑顔？わかりやすい言葉遣い？緊張しないで話すぞ！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 20%;"> <p>もうすぐ時間だ。急ごう。</p> </div> </div>	

<p>取り組む／表現する</p>	<p>2. 電話回線を接続し、テレビ会議を使った交流を始める。</p> <p>次は、この嵯峨立に古くから伝わっている嵯峨立甚句と嵯峨立神楽をお見せします。 踊るのは・・・</p>  <p>これから海峰小学校と嵯峨立小学校の交流を始めます。 よろしくお願いします。 僕たちは・・・</p> <p>わかりやすい学校の説明, ありがとうございました。海の近くの学校でいいですね。僕たちの学校は、海までちょっと遠いです。また、3000m を超える山があるなんて聞いて驚きました。今度、図鑑などで調べてみたいと思いました。</p>	<p>カメラを見て話をする事、相手が話しているときは、黙って聞くことなど実施上の注意を想起させる。 相手の状況を勘案し、自分の意図をわかりやすく話すことができたか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">プログラム</p> <p>はじめのあいさつ（海峰小学校） はじめのあいさつ（嵯峨立小学校） 学校の紹介（嵯峨立小学校） 立地等について 嵯峨立甚句 嵯峨立神楽 学校の紹介（海峰小学校） 感想発表（海峰小学校） 感想紹介（嵯峨立小学校） 終わりのあいさつ 終わりのあいさつ</p> </div>
<p>広げる</p>	<p>3. 今回の交流を通して分かったことや疑問、上手に言ったこと、思い通りにできなかったことなどを書く。</p> <p>話を聞くときにメモを取って聞いていれば、もっと詳しく感想を言えたなあ。</p>  <p>きちんと話すことを整理しておけば良かった。きっとあれでは分かってくれなかっただろう。</p>	<p>次時は、今回のテレビ会議を使った交流学習の反省会を開くことを知らせ、その材料とするために詳しく書くように指示する。 改善した方がいいと思ったことについても記入させる。 本時の反省を詳しく書くことができたか。</p>

(6) 板書計画

# 海峰小学校との交流会

プログラムと予定時刻

・

・

(7) 座席表

M.K	○	△	<b>凡例</b> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="width: 20%;">イニシャル</td> <td style="width: 20%;">関心・意欲 ◎ ○ △</td> <td style="width: 60%;">コミュニケーション能力 (特に言語を介したもの) ◎ ○ △</td> </tr> <tr> <td colspan="3">                     ・コミュニケーション能力に関する観察から                      ・本時の役割分担                 </td> </tr> </table>												イニシャル	関心・意欲 ◎ ○ △	コミュニケーション能力 (特に言語を介したもの) ◎ ○ △	・コミュニケーション能力に関する観察から ・本時の役割分担		
イニシャル	関心・意欲 ◎ ○ △	コミュニケーション能力 (特に言語を介したもの) ◎ ○ △																		
・コミュニケーション能力に関する観察から ・本時の役割分担																				
S.T	◎	◎	K.T	○	△															
カメラマン	言語に関する知識も豊富で、場に応じた話し方もできる。		時間がかかるが、場に応じた話し方をしようとしている。		H. C    ○    △		話し方に自信を持っていない。声量が不足気味である。													
M.I	△	△	N.O	○	○	M.I	○	△	K.T	○	△									
女子などの使い方が上手にできない。語彙が不足気味である。日常生活上に問題はない。			神楽の舞手あらかたまった場等における言葉遣いに気をつけようとしている。			言葉が乱暴で、他のものと誤解が生じることもある。			神楽の舞手場に応じた話し方をしようとしている。											

6 資料

テレビ電話を使用した交流の場の設定

